

— 会員寄稿 —

グリーンランド滞在記

北海道教育大学旭川分校 桜井兼市

筆者は1989年12月中旬から1990年1月下旬まで約45日間、文部省海外学術調査「低温型雪結晶及び極域エアロゾルの研究」(代表:菊地勝弘)の一員としてグリーンランドのゴットホープ(64°11'N、51°45'W)とゴットハウ(69°19'N、53°33'W)に滞在したので、そこで見聞した事について紹介したいと思います。

グリーンランドは北大西洋のカナダ寄りに殆んど氷床で覆われた世界最大の島で、南端は59°45'N、北端は83°39'Nまで約2600km、東西の巾は約1200kmで総面積は約2,176,000km²で日本の約6倍であります。日本とは地軸に対して対称の子午線上にあり時差は丁度12時間です。10世紀後半に北欧の船乗りがこの島に上陸しグリーンランドと命名して以来、多くのヨーロッパ人が植民に入り、大航海時代を経て、18世紀にデンマーク領となりました。植民は主として暖流が流れている南西海岸に入植し、現在本国の県と同等の地位が与えられ、首都はゴットホープ(現地名ヌーク)に置かれています。

グリーンランドへの空の玄関は北極圏に入った直ぐの西海岸に近いサンドロストームフィヨルド空港です。コペンハーゲンからの飛行時間が4時間、そして時差が4時間あることからコペンハーゲンを昼の12時頃出発した私達は薄暗い中を飛んでサンドロに着くのはやはり12時頃になります。この空港は冷戦時代に米国が建設した空軍基地でジャンボ機が発着出来る唯一の空港です。サンドロから最初の目的地ゴットホープに入ったのは12月18日午後6時



過ぎでした。グリーンランド航空の予定では3時頃着くことになっていましたが、フライトが遅れこんな時間となりました。初めての土地に行く不安に加え、この遅れで本当に飛行機がとぶのかとの不安が倍加させられました。後に現地の人のお話では、ここの飛行機が遅れることは日常的であるとの事でした。

ゴットホープは先にも書いたようにグリーンランドの首都で人口は1万強、グリーンランド全体で5万人程ですから、その1/5が住んでいることになります。市の中心にはホテル、スーパー、諸管庁等があり明るい昼休みにはクリスマスの買物に賑わっていました。観測と宿泊は市の南西の海岸にある水産生物実験所を借りて行われました。ここの所長はまだ若い研究者でその他に学生のアルバイトと秘書が冬期間の管理にあ

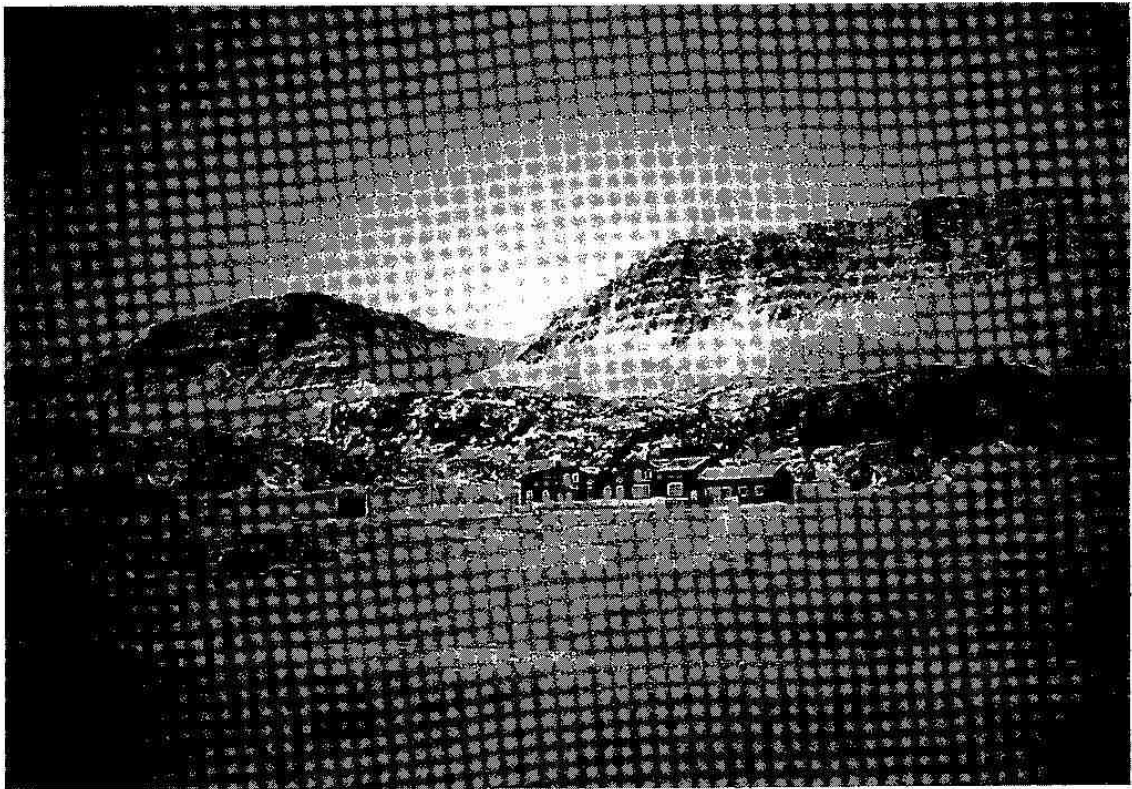


ゴットホープ；水産生物実験所

たっていました。

グリーンランドを訪れて印象的であるのは樹木が全く見られないことであります。グリーンランド全土の85%が氷床で覆われている中で平地は海岸に近いわずかな部分だけです。そこも岩盤が露出し、植物の生育に必要な土壌が殆んどなく草木類と苔類が見られるばかりであります。同じ緯度のアラスカやカナダ北部とは全く異った風景で、これは海岸までせまった氷河によって表土が削り取られ土壌の堆積がみられないことによるようです。それでもこの住民は住宅の南側に小さな温室を作り野菜作りをしています。グリーンランドと日本との関係は最近深くなっているようです。昨年、ゴットホープで日本フェアが催され日本の生活・文化が紹介され、又日本の自動車（主として4WD車）が欧州車に取って代りつつあります。グリーンランド側では日本への魚及びエビの輸出に力を入れていて、最近日本のスーパー・マーケットでグリーンランド産の冷凍エビが氷山の描かれた箱に入って売られているのを見ることが出来ます。

1月3日サンドロを經由してゴットハウンに入りました。乗換え便の最後はヘリコプターで筆者にとって最初の経験でありました。グリーンランドの海岸はフィヨルドになっており、村や町の交通機関は夏には船を使えますが道路がないために冬期間はこの「ヘリ」が唯一の交通手段となります。ゴットハウンは人口約900人の小さな村で観測はコペンハーゲン大学極地センターで行いました。センターは夏の間、学生が実習・実験を行う施設で立派な宿泊設備が整っています。観測の目的から出来るだけ気温の低い条件が望ましいのですが期間中は -10°C ～ -22°C と比較的高い温度で経過しました。ただ高緯度であることから日射による昇温は小さく日較差は極くわずかでした。ここでの初日の出は1月8日頃でその日は雲があって太陽を見るこ



ゴットハウウン；コペンハーゲン大学極地センター

とは出来ませんでしたが良く晴れ上がった1月13日に初めて地平線に太陽が顔を見せてくれました。地上気象観測はDMI(デンマーク気象研究所)が現地の人に依頼して行っており、予報は本国でされるものがラジオで放送されています。新聞天気図は非常に簡単なものでグリーンランドの入った地図に高低気圧の位置、前線、各地の気温及び天気が記入されているだけで等圧線、風向風力等は書かれていません。更に現地で発行される新聞は数日毎に発行される(1989年は最終号が164号)ので観測する上ではあまり参考とはなりませんでした。

ここに住む人達にとって冬の楽しみは短い日中に犬橇を走らせたり、海氷に穴をあけて釣をしたりすることですが、若い人にはスノーモービルを大きい音を上げて走ることがはやっています。ハンティングも盛んのように時々猟銃の音が聞えて来ます。滞在中に体長が1 m強の白熊(現地ではice bearと呼んでいた)が獲れ、皮を剥いているのを見ることが出来ました。グリーンランドと云うと私達にとって遠い国とと思っていましたが今回の訪問で顔の形も体形も似た人達の住む所で言葉は良く通じませんでしたが大変親近感をもてたことは筆者にとって大きな収穫でありました。

